

IFA2008（国際コンシューマーエレクトロニクス見本市）こぼれ話



2008 年 9 月 9 日

井澤国際特許事務所顧問弁理士 三谷祥子

8 月 29 日から 9 月 3 日まで、ベルリン・メッセ国際見本市にて IFA2008（国際コンシューマーエレクトロニクス見本市）<http://www.phileweb.com/ifa/> が開催されました。ベルリンでは恒例の、この世界最大の家電製品見本市を 9 月 3 日に見学しました。

当地ではサムスン、LG が手ごろな価格帯の製品で人気があり、そのイメージに合わせてか、会場周辺の両社の広告はとても派手で驚くべきものがありました。会場内では、展示面積と展示製品の技術力でソニー、シャープ、東芝、パナソニックなどの日本の大手メーカーが圧倒的な存在感を出しておりました。出展の花形はやはり各種ディスプレイ。ソニーとサムソンが競うように出展した 3 mm 厚 OLED に大勢の見物人が集まりました。その一方で、日本企業はそれぞれの環境事業を紹介するという、見本市としては異例とも思える展示を行いました。今年の IFA のテーマの一つが「環境」と評されたのは、日本企業の「エコ展示」にあったようです。また、「まじめ」な展示の傍ら、数か所の Wii Sports コーナーではサッカー、ボーリング、スキーを楽しむ客でにぎわっていました。



華やかな一般公開に先立って、新聞の報道によりますと、8 月 29 日にドイツ税関係官 187 人とベルリン州警察 27 人が特許侵害品の摘発のために展示会場に踏み込み、TV170 台、MP3 プレーヤー 140 台、DVD レコーダー 60 台、カーオーディオ 50 台を押収したとのこと。

Berliner Morgenpost 紙 HP で、捜査の様子を撮影したビデオが見られます。(2008 年 9 月 9 日現在)

http://www.morgenpost.de/berlin/article868598/Produktpiraten_auf_der_Ifa_Hyundai_soll_betroffen_sein.html

見本市はニセモノ摘発には絶好の機会と言われますが、これほど大量の押収品があるとは驚きました。こうした摘発により「イタチごっこ」「焼け石に水」「氷山の一角」と言われる偽物対策が少しでも前進するよう祈りたいところです。ところが、ドイツ系インターネット掲示板には、「民間事である特許に公権力が介入するとはけしからん」とか、「たとえ特許侵害品でも見本市は飾ってあるだけで売っていないのだからいいじゃないか」といった書き込みが見つかり、さらに在ベルリン日本人向けインターネット情報誌では、この摘発を「今日のベルリンの出来事」として紹介しつつ、無理やり税金を取るため、あるいは IFA にやってくる業者をいじめているのでは、との編集長のコメントを載せており、押収品の量よりもこれらの意見に落胆してしまいます。ドイツでは（ヨーロッパ各国も同様でしょうが）道案内をしってくる交番はなく、町の「おまわりさん」もいないため、警察のイメージというのは日本と違ってあまり良くなく、いきなり警察の捜査が入るだけで気分を害する人が多いのですが、IFA に関心がある人でさえこのような感想を持つのですから、ごく普通の消費者の意識がいかに希薄であるかが計り知れます。ベルリンには 10 年余り前から、海賊製品に対抗するための団体 AMP e.V.(der Aktionskreis gegen Produkt-und Markenpiraterie) が本拠地を置き、企業、法律・知財の専門家、ベルリン州警察、ドイツ税関らと協力してニセモノの水際の摘発に尽力しています。しかし、ニセモノの製造・販売ルートがどんどん複雑化する中、常勤職員が数名という AMP の行動力には限界があるようです。

ニセモノと戦う知財人の道はなお険しいということでしょうか。しかし、諦めてはいけません。

以上